



2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



功
番象
上

米加
1538
3-1

和装本

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
JAPAN
TAMMA

水加4
號 1538
卷 1-3

此法富家為

死無法之在於孝白為極為

穰裡義之條達枯神之

煥發皆為不錄之故為明也

死活新聯拜亭冥極錯綜



大正九年一月廿三日
故島村老月藏書
贈

之務志在如此法孫孫之
也毫以取夫不富也法之法
以厚文章謂墳籍者聖
猶猶抗之也而不可猶若
之及踪必無不愛詩于後

者老松以膏之亦易性同
虞氏者一而此法而之陸
跟振求若有意及十家約
之有猶言也心已採據亦
戒如高先生得之福小子

其而演說與字用法之
象密象出粘入微吾等
交而字轉之名曰助德高
象象道以上梅布之世言動小
冊子實大川之一柄大風三

吸何之若帳中之秘年松
讀若精其思為所名善
用之以盡度他一滴之水興
得讀之者身其功昌可
河也哉

文他西子孫月

門人奧妙弘奇皆員三上博
淺後于平良客舍



助語審象卷之上目次

總論初

矣也哉來焉旃居諸_{十三}

耳爾已那夫耶_{同邪乎}同歟_同

_二止只軼咫尺思忌且_六

而其猗兮此員斯_七

盖夫彼渠_{同詎}伊侯維惟_九

粵_{同越}曰聿_{同邁}繫言猷爰

時_二云噬烝逝此是_同諷斯茲_三

於于乎都案_{同寔}

且之_七

厥其戎_{若汝附}者以用式庸_三

足可宜_{同儀}

當合須_同應容_六

攸所見被遭遇受逢_{得取附}

此言... 卷之一... 目録... 非本

振道緣因由繇自從依一季故肆為雖俞爾然而附三

親附自居坐尋行追隨從旋一季敢肯猥濫汎叨聊

頗向垂九季彌愈益增加倍況滋際一季

Table with multiple empty columns and a vertical line on the left side.

助語審象卷之上



橘園三宅先生口授

門 釋海定 筆

人 三上惇 録

宮永寅

凡文章ヲカクニ助字ヲ用ユルハ何ノ為ニセハ文章ハ助字
ヲ用ヒテ意象ニク處ヲカタドリ助字ノハタラキニテ其事實ノ
緩急顔色声音ノ有サハ、デ今日ニ見ル如クカキトリ論說ノ
條理意象ノ細密ナルヲ甚ラ折ギ繇ヲ分ツテ詳ラカニコレヲ

助語審象 卷之一 橘園三宅先生

知ラシムルコナリコノ故ニ先ツ其字義ト用法トヲクワシク吟味シ
 テ逐一ニ明ラカニコレヲ辨別シ百字ハ百字ナガラ晰然トシテ
 胸中ニ條理ヲ文系サズ並ヘオキテ然レテ後筆ヲ下スニ非レハ
 意象ヲ細密ニ書キウツスコ成リ難シ漢土ノ人ハ生レテヨリ
 シテ字音ニ熟シタルコナレハ大抵ハ條理ノ違フコモナクシ任意象
 粗暴ナル人ハナラ謬リシコアリ見ヘテ柳宗元モコレヲ辨セル
 コアリシテ本邦ニテハ言語モ違ヒ字音ニナレザルコナレハ切問
 ヒ深ク思フテコレヲ辨セスハ函莽ニナリヤスキナリ凡助字ヲ

用ユルヤスカラザルコハ本邦ノ天尔於波ニテト云字ヲシト濁ル
 反語トナル如ク助字モ焉字ヲ下ニ用ル地位ヲスルコナリト上
 ニ用ル反語トナル敢不ト不敢亦無ト無亦ノ語意相反スル
 ニテモ用字ノ大切ナルコヲ知ベシ謂之ト之謂欲以ト以欲有
 嘗ト嘗有ノ類上下ニ易ヘ用ルハ大ナル差別アルコナリ粗率
 ニ心得ナレ條理ノ紛ルコ多カルベシ
 助字ヲ用ユルニ先ツ其字義ヲ細密ニ分チテ其上ニ古人ノ用
 法ヲ徴シ合セテ精覈シ然レテ後コレヲ用ユベシ字義ヲイダ

審ニセズレテ徒ニ古人ノ用タル例ノミニ倣ハ、タトハ其面ヲ識リ
テ其心ヲ知ラサル如クシハ必思ヒノ外ナル錯謬アルベシ今人
多ク字義ヲヨソニナシオキテ只例ノミニ據リテ用ユル人アリコシ
ハ大ニ危キコナリ特ニ左國莊子孟大ドノ文ハ至極手タレノ
妙筆ナレハ變化ニカセテ絶妙ノ用ヒ様多シ今徒ニ其跡
ニ擬セバタトハハ勝敗ノ勢ヲ明ニセズレテ古人ノ奇兵ノ子ヲ
スルガ如シ韓信ガ背水ノ陣ハ兵法ニソムキテ一時ノ應變又ニ
設ケタルナリ今時勢ヲ詳ニセズレテ背水ノ陣ヲ布カバ誰カ

敗レザル者ヲラシヤ用字モ亦妙手ノ迹ヲ子テ覆亡ニ似タル
コト多カルベシレド文字ノコトハ誰モ咎ムル者ナキ故ニソレナリニ
ナレ置キテ自カラ足レリトスルコト愧ズキコナリ
字義ヲ詳ニスルコトハ音紀ニ據テ義ヲ明カスニ非レバ精微ヲ盡
シガタシ凡字義ニ体用動靜彼我ノ分アリ又遠近淺深ノ
別アリ又來往アリ内外閑合ノ異ニヨリテ字義ニ心識ヲ既
往ニ注ルアリ將來ニ注ルアリ又神象器法ノ分チアリ平声ノ
字ハ神用活動ノ處ニテ名ケタルナリ上声ハ象ヲ立テ其モ

ヨウヲ想ヒヤリテ名クル者ナリ去声ノ字ハ形ニ屬シテ物ニ言
フ意アリ入声ハ神用ノ跡ヲ模擬シテ稱スル者ナリ此等ノ
一ハ迂遠ニ似テ實ハ字義ヲ知ル捷徑ナリサレモ意象ノ
精シキ人ニ非ンハ共ニ語リカタシ

凡助字ヲ用ルニ勿論スベテ文章ヲカクニ先ツ明幽兩界ヲ
明ニ辨ズベシ凡ソ日ノ光ヲタル處ハ明ナリ日ノ光ノ及バザル
所ハ幽ナリ人ノ身ニトリテハ當面ニ目ノ及フ所ハ明ナリ自
ノ及バザル所ヲ心識ニ想ヤル所ハ幽ナリ凡眼前明界ノ

ヲ記スニ語辭ノ用ナシ幽界ノヲ心識ニ想カタドリテ書ク
ニ助字ヲ用ヒテ其條理ヲ分ツコナリ譬ハ當面ニテハ鷺白
鳥脛短ト書クナルヲ心識ニカ、リテハ白矣白也短矣短
也トド、書クコアリナラソレノ字ノ下ニ禾女シク注セリ凡助字
ノ有ルベク見ユル處ニ略シテ助字ナキハ皆明界ニハナリ是故ニ
叙事ノ文ニハオノヅカラ助字少ク議論ノ文ニハオノヅカラ助字
多シ此自然ノ道理ナリコ、ヲ以テ文章ニハ助字ヲ用ユベキ
處ニハイカホド重疊シテモ苦シカラズ用ユミジキ處ニハ一向ニ

ナクテモ佳ナリ何モ多少ニ拘ラズナリ又叙事中ノ議論アリ
議論中ノ叙事アリ此幽中ノ明明中ノ幽ナル故ニ助字ノ
用ヒ様少シヅカワレリ莊子孟子ノドニアヤシキ見字ノ用ヒ
方アルハ皆コノ故ナリソモク明界ニ助字ヲ用ザルハ何故ゾナレ
ハ凡助字ハ意象ヲカタドリテ人ニ云聞ス辞ナルニ一字モ幽
界心識ニカ、ラザルハナシ故ニ當面ノノ記スハ決シテ用
ナレ古人モ當面無語トイヘリ予ガ恒ニ言フ明界無助字
ト云フ誠ニ助字ノ大關要ト知ルベシ

古人ノ文字ノ用ヒカタ色クニ變化ノツカヒ様アレ凡字義ハ一致ニ
ナラズシテ叶ハヌコナリモシ音轉スレバ義モ亦轉スレ凡同字一
音ニテハ何レノ書ニテモ其義一定ナルベキコナル漢以來ノ註解
ハ爾雅ニナラフテ轉注ヲ專トセルヨリ各其所クニ臆ニ任セテ
注スル故ニ毫釐千里ノ差ヲナセリ蓋字ヲ發語之辞トモ謙
辞トモ疑辞トモ注スル類笑スベキコナリ一字ニテカク數義ヲ
兼ルナラハ古人何ノ故ニ數萬ノ文字ヲ造ルヘキヤ學者者轉
注ニ拘ラズ字ノ本義ヲ較明スベキコナリ

夫蓋ナドノ字ヲ發語ト云フ昔ヨリ言フコトハ凡一向テキコナリ
何ノワケモナキ時ニ發端ナレバトテ助字ヲ置ヘキ理ナレ古人
ノ文ニ最初ニ夫蓋若夫夫以ナド、書キ出シタルハ其論ノ
主タルコトヲ姑ラ多隱シオキ客タルコトヲ先ツ言出シテサレ奥ニ
主タルコトヲ出シシレト照應スルコトアリテ助字ヲ置タルナリ奥
ニ應スル所ナケレハ初ニ助字ヲ置コナレ又主トスルコトヲ初ヨリ
言出シタルハ決シテ發端ニ助字アルコトナレ後世ノ文章ニ
ハ突出冒頭ノ二法ヲ立タルヨリ此惑起レリ冒頭ニカキ

多語ハ多ク客ニナル故夫字ナドヲ置ケリ然レモト冒頭
云フハ古文ニナキコトナリ此コトハ別ニ論スベシ今此ニ贅セズ又
倒裝法ト云フコレ亦故ナクシニ倒裝スルコトサレ無シ其與有
幾ト云句ヲ倒語法ト注シタルハ笑フベキノ至ナリ古人ノ
文字ヲ相錯シテ用タルハ皆其意味ノ差別アルコトナリ能
々心ヲ注テ考スベキナリ

於越ノ於阿蒙ノ阿ハ發声ナリ發語ニ非ス語ト声トノ別知
ラスレバアルカラス庾公之斯ノ之モ助声ナリ此等ハ意義

ナキニ似タレ凡阿於ハ本喉音ニテ神氣ニ物ヲ象ル全体
スワリノ声ナリ之ハ細齒音ニテ神氣ノ彼ニ從フテウツリ行
ク声象ナリ

史遷班固ガ同一事ヲ記シテ助字ノカワリテ有ルヲ見テ
語辭ニハ意義ナレトド、言フ者アリ愚ノ至トイフベシ史遷
ノ文ハ變化ヲ主トシテ列傳モ一篇ノ體ヲカヘ文字ノ用
様モ奇詭ヲ專トセリ班固ハ整齊ヲ主トシ前後始終
一定ニシテ班固ガ大ニ心ヲ用テ書換ヘタルコトナルヲ猶畧ニ

見ル遺憾ナルコト深ク玩味シテ其差別ヲ察スヘキナリ

歌辭騷賦等ノ韻文ニミ用ニ散文ニ用ヒサル助字アリ

コレハ詩經ヲ祖トセル者ナリサレ凡分些ニトドノ字ヲ散文

ニ偶用ルコアレ凡容易ナラサルコトナリ又古書ニハ助語ニ用

タル字ニテ後世ニハ用ヒズシテ韻文ニミ偶用ル字アリ古

ニ助字ニ用ヒズシテ魏晉已後用ル字アリ又後世ノ五

七言ノ詩及ヒ四六ノ文ニハ助字ヲ略スルコト多シ此モ源ヲ

詩經ニ取タルモノナレ凡是皆浮虛華飾ヲ主トスル故ニ心

ノ真象ヲソノ、寫スニ及ハザル故ナリ

文字ヲ用ルニ古今雅俗ノ別アルコトカク文章ハ西漢

已上ヲ宗トスヘキコナル故ニ今徴引スルトコロ左國史漢ヲ

主トシ旁ヲ諸ノ古書ヲ採ル

左國史漢ハ古書名ヲ舉テズ
タゞ隱元其傳ナド、書言ス

其古書ニ用例ナク已ムコト得ズ魏晉以後ノ書且及フ

者ハ是後世ニナリテ用ユル語ナリト知ルヘシ但後世ノ人ハ

心ヲ用ルコト精ナラズ故ニ文字ノ吟味モ粗ナルコト多シ法ト

スルニ足ラス因テ今唐宋已後ノ文ハ例ニ奉用ヒズ又近

躰ノ詩ノ語辭ハ多ク俗語ナリ因テ俗語ノ助字ヲ

別ツテラ末ニ出ス初學ノ輩雅文ニ混入セシコト恐ル

故ニ其科ヲ別ニスルナリ

助字掲上ノ法アリ隔承ノ法アリ掲上ト下ノ語ヲ上ヘ引

上ケ語勢ヲ急ニシテ緊切ニ聞カシムルナリ惡乎成名其

與幾何ノ類ナリ其語句ニ掲上セルアリ美哉山河之固

ノ類ナリ隔承トハ或ハ字ヲ隔或ハ句ヲ隔テ下ヘ越サセ

タル法ナリコレハ下ノ句ヲ主ニシテ云々處ナリ葬故衆而

後ノ類ナリ數句ヲ隔承セル法モアリ委多ハツレクノ字
ノ下ニ注セリ

助字複用ノ法アリ疊用ノ法アリ疊用ノ法アリ複用
ニ句頭句尾句腰ノ別アリ句頭ノ複用ハ若乃蓋夫ノ類
ナリ此ハ上ノ一字ヲ全体ノ文ヘカケ下ノ一字ヲ其下ノ語ニ
ツケテ其義ヲ見ルコトナリ句尾ノ複用ハ焉矣也夫ノ類
ナリコレハ上ノ一字ヲ句末ノ一語ニツケ下ノ一字ヲ全体ノ文
ニ係ケテ見ルコトナリ三字四字複用シタルモ此例ニテ推スヘシ

句腰ノ複用ハ既已亦復且猶ノ類ナリコレハ相錯シテ上ノ
一字ヲ下ノ文ヘ係ケテ下ノ一字ヲ上ノ文ヘカケテ見ルコ
トナリ所以於是雖則ナドハ上下ノ繋キノ語ナレハ句頭ニ
アリテモヤリ句腰複用ノ例ニシテニルヘシ疊用トハ同字ヲ多
ク用ヒタル于周于京美矣至矣ノ類幾字モ疊用スルコトアリ
句ヲ隔テ句頭ニ疊用スルモアリ句尾ニハ猶サラツ子ノ用ル
コトナリ又疊用トハ稍稍故故ノ類ナリコレハ唯才モク言タルニ
ニ非ス其事ノ續キタル意ノ所ニ用ユルナリ此等ノ數法コト

能密察_レテ其位置ヲ檢究スヘシ

助字標目歌

矣也哉來	焉旃居諸	耳爾已那	夫耶乎歟
止只軼咫	里思忌且	而其猗兮	些員斯胥
盖夫彼渠	伊侯維惟	粵曰聿繫	言猷爰時
云噬烝逝	此是斯茲	於于乎都	安寔且之
厥其戎者	以用式庸	足可宜當	合須應容
攸所見被	遭遇受逢	振道緣因	由繇自從

故肆為雖	俞爾然而	親自居坐	尋行追隨
敢肯猥濫	聊頗向垂	彌愈益增	加倍況滋
嘗曾懣經	既已業訖	無亡罔莫	蔑靡毋勿
少末微否	曼未不弗	非匪叵難	幾殆危沆
乃迺載便	還輒卽則	就登遲動	宛轉見仄
唯徒但亶	啻只徑直	第地立乍	崑尤獨特
甚太竒絕	孔痛酷苦	極至殊異	驟數亟屢
原本主舊	雅素職固	翻還却倒	反般覆顧

旋寢漸徐 稍差較良 湍趣頓溘 豫欲且將
適屬祗多 端鼎正方 偏一誕大 奄丕駁荒
必會定計 要期斷決 悉備盡單 詳具畢屑
皆咸僉舉 裁才僅劣 代狎間拾 交互遞迭
俱偕共併 與及之暨 相胥兩耦 竝竊遲比
遙迄了可 終竟卒遂 連頻仍旋 薦荐恣累
如若似均 仍故猶尚 幸賴熟倩 信允情諒
實寔展會 真洵誠亮 能善克巧 好喜矧况

更改起兼 還復亦又 始初肇甫 造昉在有
任耐勝堪 慤強咋迨 長每恒常 伯會脫偶
抑或果苟 卽儻設試 審就如若 縱借假譬
嚮匹使令 遣教俾致 拜仵作為 庶幾上冀
許頃所可 空虛姑薄 凡最率槩 抵歸類約
慮諸統合 總切粗畧 幾豈巨寧 孰疇誰各
詎疾那奈 奚曷何胡 盍闔遐庸 焉安惡烏
嗟噫嘻戲 唉歛嗚呼 叱啞寒羌 嘯咨都吁

馨麼地阿	頭邊許價	恁儘做慣	忤色上下
等底恁甚	那他這箇	可該是也	解險然些
任放浪謾	不休沒莫	來去除只	說道得着
負取窄斗	打赤了却	恰纔剛的	殺生樣脚
向和枉賸	番回子兒	靠交消屬	哩呢咄噴
古今語辭	槩具干斯	精之覈之	勿錯毫釐

右助字ノ目ヲ押韻シタルハ初學ノ輩ヲレテ記得シヤスカラシメンガ為ナリ其複出セルモノハ或ハ同字ニテ語頭語尾ノ用

例異ナルアリ或ハ訓ニツニツアリテ用例異ナルアリ其類々ニ從ツテ複出ス又標目ニモレタル字ハ其類ノ字ノ下ニ附出セリ搜索シテ見ルニ又コノ中ニ語辭ニアラヌ字モ有リケメド類ニ觸レテコレヲ書キツラ子初學子ノ人ニ便リスルナリ

字注ニ某者云云之辭トアルハ真ノ語辭ナリ云云日某トアルハ助辭虛字相兼ルナリ云云之稱トアルハ助字ニ非ルモノナリ

矣也哉來ヨリ嘆咨都吁マデ四百八十字ハ古文ニ用ヒ來リタル字ナリ馨麼地阿ヨリ哩呢咄噴マデ八十字ハ小説俗語ノ助字ナリ其ウチ那是可然ナドノ字ハ前

ニ出タレ凡俗語ノ用ヒ法ヲ別ニ知ラシメガ為ニ俗語ノ部ニ
モ重テコレヲ出セルナリ

雪ガ白ロカツタ、 雪ガ白ロホー、 雪ガ白ヲ答シヤ、 川矣

雪ガ白キル助字ナシ、 雪ハ白井ル也、

雪ガ白キル助字ナシ、 雪ハ白井ル也、

○矣也哉來 焉旃居諾

矣

カフアツタ
カアフラト訣ス 矣者心知其然而直處之之辭

矣ハ幽界ノ心識ニテカヤウナルヘニト定メテ云出ス辭ナリ何

コトニテモ當面ニナキコトニ我心ニテカク成テスミテアルコト定メオ

キテ言フナリ 既往カ將來カニ係ケテ語ル助字ナリカフアツ

タカフアラフナト言ヒ流シテ辞ノ尾ヲ下ヘ引テ人ニ聞カシムル

意モチアリ

焉字ト相反ス焉
字下ニ詳ナリ

凡他ノ助字ハ明幽兩界ニ渉ル

字モ尋ケレ凡矣字ニ限りテハ明界ニ少シモ係ラズ見在

カハ吾人ノ教

ハシヨニ用ヒヌ字ナリト知ヘシ 矣字ハ幽界ハカリノ字ナル故ニ昔

リ天朝古人ノ始テ和訓ヲ附ラレシ人々意象精密ニシテ西テ

字ノ文理ニ審カナルト分毫モタカハ又處コレニテ至觀ツレトカク今人

ハ書ヲヨム粗ナルニハ神識
モ其至ル所ニ盡サブルナリ
論 使子路反見之至則行矣 今アサリタルニ非ス既ニ

左宣 寝門闢矣 今眠前 哀 曰門已閉矣
二年 寝門闢矣 今眠前 哀 曰門已閉矣

也則忠 謀其自謀リシハ過ニシテ之ヲオキテ先君ノ多メニ
也則忠 謀其自謀リシハ過ニシテ之ヲオキテ先君ノ多メニ

申叔時老矣在申 今老シタルニアラズ
申叔時老矣在申 今老シタルニアラズ

已上皆既往ハ係ル矣ナリ 今眠前 哀 曰門已閉矣

鄭不來矣 不來ニテリ
鄭不來矣 不來ニテリ

我 不忘矣 不忘ニ
我 不忘矣 不忘ニ

死矣盆成括 死ルデ
死矣盆成括 死ルデ

崩 曰天王崩復曰天王復矣 崩ハ明界見在ナル故助字ナシ
崩 曰天王崩復曰天王復矣 崩ハ明界見在ナル故助字ナシ

已上將來ハカ、ル矣ナリ 今眠前 哀 曰門已閉矣

字ナレハ其事既ニシレニハキハツニ定マリテアルトニシテイフク

子封曰可矣厚將得衆 今方今ナレハ心ニカヤウナルヘシト定

法 吾又執之以信齊沮吾不既過矣乎 矣字ヲ過字ニ

上テ全文ニカケテ見ルナリハ句尾
ニ助字連用スル者ニナリ例ナリ

昭十深思而淺謀邇身而遠

志家臣而君圖有人矣哉矣字有人ニカ、ル
哉字全文ニカ、ル

傳劇孟吾知其無能為己矣也矣焉矣耳矣矣夫
ナリ此例ニテ推知ヘシ

法魯角至矣盡矣美矣大矣鄭王師若在其救之亦必

然矣王心怒矣虢公從矣凡周存亡不二檢矣君若

欲避其難速規所矣コハ句ヲ隔テ、
累用セル法ナリ

法揭上論鮮矣有仁鮮有仁矣トアハ語勢緩ナリ語ヲ緊切ニ
スルタメニ矣字ヲ上ヘ引上タルナリ

書封禪三代邈絕遠矣難存遠クナラテアルデ難存テアラフナリ遠難存
矣ノ心ニテ矣字ヲ引上タルナリ遠而難存

ト書フトキハ彼ニ遠クナリ
アツテコ、ニ存セヌナリ

也ナリ也者析其條理而示之之辭

也ハコレハカタコト、辨別ヲ入レテスヂヲワケルナリ説文ニ

也女陰也トアリコトハ同シ人ナレ氏男ト形ノカワリテ女々

ルノ理ノ別ル、處ナルヲ以名付タルナリ助字ノ時モコノ

理ニヤト云テコノ理テナイト云モノヲ相手ニ持テイフ辭ナリ

也ト矣ノ別ハ矣ハ往ニ属シテ心ニオシスエテ定メ置テ云フ辭ナリ

也ハ來ニ属シテ今テ引キ別ヲ入テ云辭ナリ譬ハ鷺白鳥短ナ
ド當面ニテ書ク時ハ助字ヲ用ヒズ心識ヘカケテ云トキ、之助字アルヘシ
鷺ハ白キモノデアツタ、白鳥ハツギヤナド、云フハ矣字ナリ鷺ハ黒キモノ

デハナイ白キモノシヤ上云ハ也字ナリ息腫ハ短クテテアツ多短キモ
ノデアラフト云ハ矣字ナリ息腫ハ長キモノデナイ短キモノヤ上云ハ也字
可也 不可也ト云モノヲカタク
持テスチ分クヌルナリ 不可也 可也ト云モノヲ心ヲタク
立テ置テスチ分ルナリ

他家穀城山下黄石即我矣 即我ニナルト定
テ云ヒキカスナリ 即我也 我ニチガヒ
ナイトスチ

即我 助字ナキハ當面アソク
マ、ヲ写シタルニナリ

凡ステ假名ニナリト讀ムテ也字カ矣字スルヘキ様ニ見ユル所助字ナ
キハ語勢急ニシテ幽界ノ心慮ヲ語ルニ及ハズ只當面ノクマ、ヲ寫シ
タルニナリワザニ字ヲ省キタルニ非ズ
凡テ助字ヲ畧ス法此ニ准知スヘシ

也字句腹ニ用テヤト訓スル時モ先ツ辨別ヲ立テ置テ其

事ヲ説キ出スナリ句尾ニ用ルモ同シ

論 回也 回一人ヲ引クテ云フナリ 參乎ハ只呼カタルニナリ
凡人名ヲ下ニ也字ヲ付タルハミナクノ例ヲ知ルヘシ

其舍人臨者晋人也逐出之秦人六百石以上奪爵

遷 秦人ハ也字ナレ晋人ハナリ
也字アリ 主客ノミガヒナリ 衛吳與兵是邪非也

宣所謂素封者邪非也 コレカト訓スレトモ也字ニ疑意ヲ問立
モルニテスレトノ語勢ニ牽レテ疑問ノ

何也 何字ニ疑問ノ意ヲ持テ也字ヲ
カヘタルハワラスチラケテ問フニナリ

成浹辰之間而楚克其三都無備也夫 也字無備ニカ
夫字全文ニカ

也焉也矣也乎也與也邪也哉 ミチ句尾複用ナリ
上ノ例ニ准知スヘシ

幼語

累昭十 楚子聞蠻氏之乱也與蠻子之無信也

也字句尾ニ累用スルコト多キナレハ例ヲ基ルニ及ハス易ノ象
傳ハレシヤ也字句尾テリ又物ヲ歷ク數元語ニ其不可一也其
不可一矣ナド用リコアリ留侯世家ニ六國ノ後ヲ立ルコトヲ議シテ
其不可ヲイフニ三ツヨリマハ也字ヲ用四ツヨリ已後ニハ矣字ヲ用
タリコ前ハコレテ不可ガイクツトスナラフクテ云フキニテ也字ナリ
後ハ語急テリテ留侯カ自ラ心ニ定テ數ヘテ幾クト云ル故ニ矣字

哉

モトト云

哉者自我裁之以確斷之之辭

哉ハハジメト訓ジテコレカラ切分ケテ人テヲハジメトスル意ナリ哉
生明ノ類ナリ助字ニ用元時モ大哉トイハ外ノ小ナル者ヲ
オシケケニフテコレヲ大スル首トシテコレハクサテモクト嘆

異スル意ナリ句尾ニアル時モ推切テドコモデモコノ通りト其
上ノ語ヲ推カエシテ云程ノ意持ナリ

矣ト哉トノ差別ハム矣ハ我心ニテカフアルヘシト定メテ外ヘ云出スナリ
哉ハ明界ノ物カ事カラ見テ誠ニカフアルゾト我心ノ幽界ニ引入テ嘆
異スルナリ我ヨリ彼ヘスルハ矣ナリ彼ヨリ我ヘスルハ哉ナリ
哉ト乎トノ別ハ哉ハ一段意ヲ加ヘテ嗟嘆スルナリ乎ハ唯ソノコトヲ云カ
テ入ノ心ヲ引
出スルミナリ

仁哉 マコトニク仁ナル 仁矣 仁ニナツ 仁也 仁ニナガヒ 仁焉

仁夫 仁シヤ

往欽哉 欽ニシト云フヲ入念ヲ入テツヨク
云フテ哉字ヲ加ヘタルナリ

魯其懼哉

傳十 君其悔是哉

哀十 公曰諾哉 諾ヲタシカニ云タルナリ

司馬相 朕獨不得与此人同時哉 歎シテ言タルナリ

復轉世 終為諸侯十餘世宜乎哉 乎字ヲ宜字バカリニツケ哉字ヲ全文ヘカケテ見ルナリ下例此

昭十 為人子不可不慎也哉 禮 尚行夫子之志乎哉

論語 子游為武城宰子曰女得人焉耳乎哉 焉為武城宰トコロニナリ耳ハ人

ヲ得タルニスルナリ乎ハツラ云カケタルナリ哉ハ推返シテツヨクイヒタルナリ凡三字四字複用スルモノ皆此例ニ准知ヘシ

累真陶 臣哉鄰哉鄰哉臣哉

揭 觀故蕭曹樊噲滕公之家及其素異哉所聞

始皇 善哉乎賈生推言之也 賈生推言之也善哉乎ト云語ノ勢ヲ緊切ニキカセシタメニ上ヘ引上タル者有

故句尾複用ノ例ニシテ哉字ヲ善字ガカリニツケ乎字ヲ賈生推言之也善ト云全文ニカケテ見ルナリ

吳起 美哉乎山河之固 禮 仁哉夫公子重耳

哉字句尾ニナリテヤト訓スレバ哉ニ反意モ疑意モアル

ナレ上ニ豈何ナドノ字アバ語意既ニ反語ニナリタルヲ哉

字ヲ加テツヨク聞セタルナリ上ニ豈何ナドナキニモ語勢ニテ既ニ

反語モシクハ疑問ノ語トナリタルヲ哉字ヲ加テツヨク云ルナリ

哉字疑意アルヤウニ心得ルハ大謬ナリ

荀夫又誰為恭矣哉又誰為恭ニテ恭ヲ為「ハセ」ト云語意ナラ

為恭ト云「ラ」定ルタメニ矣字ヲオキ全体ノ語

ラヨク云タメニ哉 僂何征而不服乎哉僂何征ト云「レ」

字ヲ置キ其全文ノ意ヲ重タスルタメ 或曰齊衰不以弔曾子曰我弔也與哉

弔オチリ 我弔也與ニテ我弔スルニアルヤ弔スルニテナキツ

十二 獨吾君也乎哉獨吾君也乎ニテ獨吾君ニテ君ナルヤサフテハナイト云

來イガ 來者誘而啓之之辭來者誘ト云「レ」

來人ヲ呼テイザナヒ出ス辞ナリ哉字ヲ彼ヘヨサ

君傳長鈇歸乎來食無魚子孟盍歸乎來

莊嗟來桑戶乎全嘗以語我來

焉コニ 焉者提覆之以帖之其地位之辭サアト云「レ」

焉ハ木鳥ノ名ニテ焉ノ類ナリ焉飛反天ト云テ空ヘ上ル性

アリ助字ニ用ル時モツレトコロニテ上ノ文ノ事カ物カ

ノ其地位ヘモドリテ下ノ文段ヲ其處ヘ持越シテツコニスハリテ

カフデアルト云意ナリ古人モ焉字意揚ト注セリ焉ヲコレト

訓ハルトキ 別ハ之字ノ下ニ詳ナリ

矣ト焉ノ別ハ焉ハ焉字ニテ文意ヲ留テ跡ハ引カヘス意持ナリ
矣ハ語ノ尾ヲ引テ下ニ言ヒ流スナリ前後ノ別全ク相反スルナリ

宣公御宣淫民無效焉子孟雖褐寬博吾不憚焉

語勢ヲ焉字ニテ受テハ子返ス故ニ反語トナリ莫大焉孰大焉
ナドモ同シ語氣ナリ無效矣トアレハ效クナキト云フナリ不憚矣ト
アレハオウレハセヌト云フニナリ
コレラニテ之ヲ焉ト差別ヲ推知ヘシ

曹相國世家 參於是避正堂舍蓋公焉焉字避正堂ノ處ヘモドルナリ

相反行飲至舍爵策勲焉禮也焉字行飲至ヘモトル焉字ナクハ舍爵策勲ト飲至ト別クニナリ

凡書取言易也用大師焉曰滅焉字上ノ取字ニ係ルナリ

凡勝國曰滅之獲大城焉曰入之焉字勝國ノ處ヘモトルテ勝ト元ニテ取ル意ヲ云フ

織以兩之一率適吳舍偏兩之一焉與其射御焉字兩之率ニ并ス

推繫之維之以永今朝所謂伊人於焉逍遙焉字ハ上ツ文段ヲ認取シテ

地位ヲマハル字意ナリ永今朝ガ主ニナリ於此於茲ナリ伊人ガ主ニナリ於焉ノ字句首句腰ニ用ヒ句尾ニ用ヒナリ此茲等ノ字ノ下ニ詳ナリ

兩涘渚崖之間不辨牛馬於是焉河伯欣然自喜於

是焉ハハリ小雅ノ於焉逍遙ノ於焉ト同シ義ニテ見ル事ノカワリ目ナル故ニ是字ヲ加ヘタリ

覽焉始兼舟辯焉乃遊以徘徊焉コノ二法ハヤハリ於焉ノ意ヲ受テコノ二

置テ奇法ニテ類ニ倣ヒガタシ

複義所以重責婦順焉也衛亦已焉哉

掲隠我周之東遷晉鄭焉依依晉鄭焉ト云フナルヲ晋鄭ノ字ヲ主ニシテハ多クセタル故ニ上ヘ引上タル

昭三遲速衰序於是焉在コレハ入ニ云カケタル語ナルユヘニ急ニシテ焉字ヲ引上タルナリ於是在焉ノ意ナリ

誰有數存焉於其間存於其間焉ノ意ナリ陳誰侑子美心焉切

切心切切焉ノ意ナリ群帝焉取藥取藥焉ノ意

襄三安定國家必大焉先先焉ノ意

旃者之焉之合也

旃ハ之焉ノ二字ヲ合セタル意ナリ文ニ重ク体用ヲ具テ

書ク時ハ之焉二字ヲ連用ス輕ク用分リヲ云時ハ旃字ヲ用ス

桓初虞叔有玉虞公求旃法舉茲以旃

居音姫居者度其所處以呼道之之辭

居ハ其ハ旨ヘスエテ言テミル意ナリ

邶日居月諸胡迭而微誰侍立乎前曰何居乎

成誰居後之人必有任是天誰居其孟椒乎

諸者之於之合也

諸ハ之於二字ヲ合セタル意ナリ之于之乎ハシヨモ假リ

用ニ体用ヲ具ス時ハ之於之于之乎ト二字連用ス輕ク

用ノミラ云トキハ諸字ヲ用ユ

成ノ會于戚討曹成公也執而歸諸京師ノ意ナリ

倍ノ執衛侯歸之于京師寘諸深室上ハ重クテ之テ一カキ下ハ輕ク諸字ヲ用ク

擅望反諸幽ノ意ナリ論山川其舍諸ノ意ナリ

祭勿勿諸欲其饗之也カク如ク貌ノ形容ニ用ル時モ同意ナリ

郊特於彼乎於此乎或諸遠人乎

復ノ待諸乎之ヲ於ニマタニ乎ナリ

揚論其諸異乎人之求之與公其諸為其雙雙而俱至也

○耳爾已那夫耶乎歟

耳而止切 耳者而止之合也

耳ハ高カコレヤト一ナダリニ言ヒコナレテシマフナリ

論前ノ言戲之耳戲レシヤ荀天子恭已而止矣而止二字連用ノ法ナリ

復ノ子雜識志順詩書而已耳則末世窮年不免為陋儒而已

爾如是切 爾者紀此其如是之辞語尾之爾

字彙ニ耳爾凡ニ如此切トス誤ナリ耳ハ内開ナリ爾ハ内開合ニ同ジカラス

爾ハコソトヲリデアルト云意ナリ耳ハ往ニ属ス已ハ來ニ属ス爾ハ往ヨリ來ニナルナリ

檀弓 祭祀之禮主人自盡焉爾重ク云タル 全斯盡其道焉耳故云爾ナリ

輕ク云タル 故云爾ナリ

已音異去声 已者示無復有其他之辞語尾之已

已ハモフシレギリニテスミテアルト埒ヲ付テ云辞ナリ

哀後雖悔之不可食已

而已アトデモフシ而字ヲ加レハ一段 而已矣ソノスエガモフシレギリニ定ツテアル

魯仲連傳 梁王安得晏然而已乎

曾子問 何必小功而已全 豈大功耳前ニ小功而已ト云タル 乎爾也爾

用後 莫余毒也已也字毒ニ係ル 巳字全文カハル

已矣 已夫 已耳 耳矣 也耳 乎爾 也爾

也已矣 焉耳矣 而已爾 而止耳複用スルコト多キ故ニ 一々例ヲ奉ル及ハス

那去声奴取切 那者詔彼之失所之辞

那ハイカント訓シテナシテアルツト問フ意ナリ

後漢韓康傳 公是韓伯休那舊說ニ那ヲ語餘聲トシ梅齊作モコレヲ引タル此那字下ノ句ハ屬シテヨム説ナリ按ルニ

那字語声ニ用タル 他書ニ見エズ 旧説非ナルベシ今此例ニエラフベカラス

夫カナ 夫者認此以屬彼之辞語尾之夫

功吾嘗來

夫ハアノコト、外ニシ言フ辞ナリ句尾ニアル時ハ上ノ文意

直チニ斥シ言ハスレテヨソナガラナラズヘテ云フ意持ク夫ヲ疑辞ト注スル誤

可キ無ル憂ル夫ヲ可シ無ル憂ル矣ナ可シ無ル憂ル也ナト、同ク憂ルナキト云意ニ

可キ無ル憂ル乎ナ可シ無ル憂ル與ナ可シ無ル憂ル邪ナ可シ無ル憂ル哉ナトハ比反語

ナリ故ハ疑辞ニ非レバツヨクコダツケラ云フ字ナルニハ語勢ニテ反語一

昭二 女遂不言不笑夫

復子 古人之糟魄已夫

揭韓王於戲悲夫夫計之生熟成敗於人也深矣コレハ悲夫ノ終ノニアルベキヲ上へ引上テ語勢カラ切ニシタルナリ悲夫ハ悲シヒカナアコト、云キミナリ明界コリ幽界ヘユキテ言フナリ

ノ終ノニアルベキヲ上へ引上テ語勢カラ切ニシタルナリ悲夫ハ悲シヒカナアコト、云キミナリ明界コリ幽界ヘユキテ言フナリ

耶カ以カ遮カ切カ 又作邪ドモラタマエト誤耶者半信半疑之辞

邪ハテアルカデアアルマイカト一ト返シツ、ウララ返シテ言フ

辞ナリコト入テ深ク推ラマワシテ云フ氣味ナリ

昭二 不知天之弃魯邪 老此其以賤為本邪非乎

項羽 本紀 舜目盖重瞳子又聞項羽亦重瞳子羽豈其苗裔邪

貨殖 傳 豈非道之所符而自然之驗邪フハ二條一ハ豈ノ下ニ非字アリ一ハ非字ナレ語意相反スル

ニ似テ相反セス紛ラハシキ外ナリ豈ハ反語ナル故ニ豈其苗裔ノ四字ニテ豈其苗裔ナラシヤト云語ナルヲ耶ノ疑辞ヲ加ヘタル故ニ

カエツテモレモ苗裔阿アルマイモノヲモナト云フニカエル非字アルハ又ツレテ一カハ返シテ深ク論シタルナリ

累莊子人大喜邪毗於陽人大怒邪毗於陰

荀將以為智耶則愚莫大焉將以為利耶則害莫大焉

漢武帝本紀神人尚肯耶不耶肯不二字ニテモ聞ヘテアレトモ疑ラ

乎ヤカ 又作辱ゾナアト誤ス 乎者呼道之以達情於彼之辞

乎ハ呼ノ義ノ深キニ人ニ云ヒカケル辞ニ別ニ意味アルニ非

ス呼カケテ向ス意ヲ注キテ聞者ノ心ヲ引出スニ之疑意ニモ

決意ニモ拘ハズ上ノ云カクタル文勢ニ疑ニモ決ニモ用ルナリ

論語不亦說乎マタ悦ハキ 卒曰天乎仲為不道殺適立

庶天ハ呼カク 也乎 矣乎 哉乎 已乎

乎哉 諸乎ミナ句尾複用ノ例ナリ

累昭已乎已乎非吾黨之士乎

揭李廣曰惜乎子不遇時語ヲ切ニ聞レル為ニ先最初ニ惜ヒヤチ上呼カケテ向ス心ヲ引出シテ次ニ其ワケラ云者之

論語惡乎成名惡成名乎トイハハ緩ナル 莊道惡乎在

孟子辭尊居卑惡乎宜乎コレハ下ノ乎ノ字マダ言カケタルコトモチナリ

歟ヤカ 又作與ドモヤト誤ス 歟者教彼聞而裁其然之辞

與ハ我心ニ大槩カフアラフカトキワメテ向フノ心ヲ推尋ル辞

ナリ我カ思フコヲ云ヒ聞セテ向フニテ然ハ否ヲ判断サセル
意ナリ與字ヲ用ユル語氣柔ニテ向フハ遠慮スル
様ニナル故ニ語氣厲シキ處ニ與字ヲ用ヒス語氣ハ
ケレキ時ハ乎字哉字ナドヲ用ユ孰與ノ與ハ上声ナリ
與及字ノ下ニ詳ナリ

乎夫與ノ別ハ乎ハ呼カケテ語急ク夫ハヨソニ云辞ニテ語緩ク與ハ向
ク投カケテ云キニ夫ハ往ヲ主トス乎ハ來ヲ主トス與ハ往ヨリ來ヘユク

此之謂與此ノ謂デ
アラフカ此之謂乎謂デ有
ヤ此之謂夫謂デ
アレハ此之

謂矣謂ニ定ツ
テアル此之謂也謂ノチ
ジヤ此之謂也夫謂ノスチテ
アノ通リヤ

論語 君子人與君子人也自問自
答ナリ 韓詩曰廉矣如仁歟則

吾未之見也複韓詩
用外傳是非類與乎

論語 道之將行也與命也道之將廢也與命也

揭僂二其人能靖者與有幾有幾與ノ意ナリ舊說ニ
與有幾ト讀スハ非ナリ

調其與能幾何能幾何與
ノ意 全何辞之與有スレカ
ヤ

檀弓引師與有無名乎有無名與乎
ノ意

○止只軼咫 里思忌且

止止者注意於其所底至之辞語尾
之止

止八行ノ反ニテ意ヲ其地位ニ留メテイフナリ

齊風 日月陽止 女心傷止

只レ者見レ此有レ而彼無レ之辭語尾之尺

只レハ其一ノ二成テアルナリ 止只相近シ止ハ

周南 樂只君子 福履綏之襄二十七 諸侯歸晋之德只

軼尺 尺尺 並與只同同音ニテ通シタル

莊子 而奚來為軼語吾不能行也尺尺字韋注ニ尺尺間トスルハ非ヤリ只ト同ク語助ク

里リ 里者質其所處之辭ゾト訣ス

里ハ其地位ヲ求メテ言フ居ヲヤト訓スルト相似テ里ハ靜ナリ居ハ動ナリ

大雅 瞻仰皇天 云如何里蕩

思シ 思者冀其用心於茲之辭コニニ平声

思ハ其所ニ思ヒテ運シテ見ヨト云意ナリ

大雅 神之格思 不可度思 矧可射思蕩

忌キ 忌者躬尋思之而不自已之辭

忌ハ深ク其一ヲ想ヒヤリテ躬ニツケテ見ル心ナリ

鄭風 叔善射忌 又良御忌

且且 且者姑此處之之辭次且ノ且ト同義ナリ

且且 且子魚切平声

且ハチヨツトスワリニスル意ナリ

且ユニカツマサニナド訓スルトキハ七也切テ上声之下ニ詳ナリ

唐椒聊且遠條且

用鄭狂童之狂也且

王左執簧右招我由房其樂只且

只且カクバカリト訓ス且ハカクナリ只ハバカリナリ

○而其猗兮 些員斯胥

而

サレテト訓ス

而者擬有越以承之之辞

語尾之而

而ハマダ其跡ニ言フコト心ニテ詞ヲ殘シテ餘意ヲモタセタルク

宣若敖氏之鬼不其餒而

言ライヒ終ラズシテヤメタルナリ

用復齊俟我於著乎而充耳以素乎而

乎而サフシテマアト訓ス而ハサレテハマアク

累論已而已而今之從政者殆而

揚雄太玄

魁而顔而玉帛班而

其

其者注意於彼以指示之之辞語尾之其

其ハソレ方ト指テ用ニシ言フナリ

居ト相近シ其ハ用ニ属シ居ハ体ニ属ス

魏子曰何其

微子若之何其

猗

アレト訓ス

猗者示軟然若不自勝之辞

猗ハホソクトヨハクシク出ル声ナリ

アト訓ス下卷ニ出

魏河水清且直猗

誓斷斷猗無他技

兮

兮者令語以餘響以遠及之辞

分之为為声馨也
香之遠聞日馨

兮ハ語意ヲ引ノハシテ心ニ味テ持テ

居テ餘韻ヲ含マセタル辞ナリ

老禍兮福之所倚ル

兮ハ辞賦ニ多クアル字
ナルユヘ例ヲ舉ルニ及ハズ

些去声
蘇箇切

此者且之轉也

此ハ且ト同意ナリ

鄭風ナドノ且字楚音ハ清高
ナル故ニ轉メ此トナリタルナリ

宋玉招魂去君之恒幹何為兮四方些

員ウレ

員亦云也云字見ニ
于後

員ハ云ト同義ニテ言フコガアルト云意ナリ云ハ体員ハ用

鄭風縞衣綦巾聊樂我員樂我員ト解スルトキハ助字ニ非ス姑ク旧注ニ因テコニ録ス

斯

斯者舉其有條紀者之辞語尾之斯

斯ハ其路合ヒテ持テイフ辞ナリコレト訓スル例下ニ出

玉藻二爵而言言斯注斯猶言耳也
小雅蒹葭彼柳斯

胥平声

胥者相泊以處之之辞語尾之胥

胥ハスワリニスル地位ニイタリタルライフ辞ナリ且ハ休胥ハ用

小雅君于樂胥受天之祜ヲ

右矣ヨリ胥ニ至ルマデ皆語末ニ用ル字ナリ句ノ中間ニアルトキモモト

助語

三

語尾ヲ主トスル字ナルニハ
ソノ字ニテ語意切ルト知レ
ソノウチ矣ヨリ歟マテ十六字ハ韻文

ニモ散文ニモ通シテ用ル辞ナリ止ヨリ胥ニ至ルニテハ韻文

ニ限リテ用ル辞ナリ只而今ナドノ字散文ニ交ハクアレ居皆
諷誦ノ意ヲ帯ルルコトニ非レハ用ヒスナリ

○蓋夫彼渠 伊侯維惟

蓋カイ
ケダシ
オホム子

蓋者占其梗槩以蔽之之辞

盖ハ大畧ヲオサエテアテガフテ言フ意ナリ吾心ニテ下カマ

へ横ヘテ云フキミナリ盖ヲ疑辞謙辞ナド注スルハ大ニ非
ナリ疑意モ謙意モアルコトナレモト

蓋織キヌガサノ蓋ヨリ出タル字ナリ孝經孔傳ニ蓋者稱辜較
之辞ト云注的當ニ辜較ハ

酤推ニテ上ヨリ定數ヲ
立テ其利ヲ占ムルコトナリ

蓋夫 蓋嘗 蓋聞コノ類スベテ發端ニアルハ蓋ノ字
意其下一段ノ全文ニ蒙ルナリ

其人蓋少矣句腹ニアルハ其下ノ少矣ノ一語ニ之係ルツ子ク
多クアル字故例ヲ參グス下例ヲダゲザルモノ此ニ倣ハ

夫フ
カソ夫者認彼以属此之辞語頭
之夫

夫ハ其事ヲ客ニレ言フ時夫字ヲ冠ラレムルナリ語尾
ノ夫ハ

我ヨリ彼ノ明界ヨリ幽界ヘユキテ言ナリ語頭
ノ夫ハ彼ヨリ我ナリ幽ヨリ明ヘトリ來ルナリ

成十楚人謂夫旌子重之麾也哀夫非而讎乎

覆苟子夫是之謂天君

力吾嘗良

又發端ニ夫ノ字ヲ置クハ先ツ外ノ一ヲ援キ來テ論ヲ設
ケオキ後ニ當面ノ一ヲ書出スマハオキニスルナリ

夫以ニテ 蓋夫 原夫 若夫 以夫ニテ 彼夫 夫彼

句頭ノ複用ハ夫以ハ夫字ヲ一段ノ全文ハ係ケ以字ヲ最初ノ一語ニツケル
蓋夫ハ蓋字ヲ一段ノ全文ニ係ケ夫字ヲ最初ノ一語ニツケル餘ハコレニ倣ヘ

累四隱夫州吁阻兵而安忍阻兵無衆安忍無親衆叛親

離難レ以濟矣夫兵猶火也弗戢將自焚也夫州吁弑

其君而虐用其民三夫字ヲ累用ス魯ニテ衛ノ一ヲ云フニ
外ニレテイテ意ニテ夫ヲ加ヘタリ

彼ヒ 對此以舉其敵曰彼ト

彼ハ此之反ナリ我ニ對シテ体ニ言ナリ夫ハ對ラトラス唯
用ニ言スミナリ

王風彼黍離離彼稷之苗カレコトアルト
云意ナリ

渠キ 渠上カレ 詎同 臨彼以斥其所程分曰渠

渠ハ我ニ對スル意ナクシテ唯カレコノバミヲ指スナリ

子列以為偶然未詎怪也渠ハ向フヲ輕シ
ジ云外ニ用ユ

伊イ 伊者狀此其為物以指之之辭

伊ハコトヲ様子ノモノト輕ク設ケテ云ナリ彼渠ハ体
伊ハ用

秦所謂伊人在水一方

力吾定

侯コレ 又作侯

侯者處於其所標的之辭

侯ハムカフテ其目アテテタリタル処ヲ云ナリ

射侯ノ字ヨリ
轉用シタルナリ

周頌
載 侯主侯伯侯亞侯旅

維コレ

維者實其物繫往之之辭

維ハ其物其事ヲ此地位ニツナギトハテ言フナリ

南維鵠有巢維鳩居之

惟コレ

惟與維同

禹厥草惟繇厥木惟條

維ハ物ヲツナギトメテ置クナリ
惟ハ心ヲツナギトメテ置クニ

○粵曰聿繫言猷爰時

粵エツ
コハニ
コニオヒテ
ヲヨシテ 又作越

越者有踰邁以來及茲之辭

越ハ一段ウチ踰テ其處ニ來リ及ヒタルヲ云

越ノ字義ハ高キ上ニテ踰テ
又卑キ処ヘ下リタル意ナリ

詔惟二月既望越六日乙未王朝步自周

曰エツ
コニ

曰與粵同

秦我送舅氏曰至渭陽

聿イッ
コニ 通同

聿者度其所之以位之之辭

聿ハ其子ナキノ地位ヲ計リテ云意ナリ

ツイニト訓スルモ同
義ナリ例下ニ出

漢食^{コニ} 聿為改歲 詩經ニ曰為改歲トアリ曰聿音近キ故ニ通シタルナリ

繫^{コニ} 繫者思之^テ而位^ス諸心之^ニ辞

繫ハ心ニテコノ処ニトバシヨラ立テ言フナリ アト訓スルモ同義ナリ例下ニ出

僖^モ 五民不易物^ハ惟德繫^レ物^ハ

言^{コニ} 言者從其所出^ル以位^ス之^ラ之辞

言ハズツト其マノバシヨニト云處ニ用ユ

周^ニ 南言告師氏^ニ言告言歸

猷^{コニ} 猶同 猷者擬度^シ以位^ス其所道^フ之^ル辞

猷ハ心ニ謀リテ其スヂヲ云ヒ出スナリ アト訓スルモ同義ナリ

大^ニ 猷大詰爾多邦越爾御事

爰^{コニ} 爰者得所以位^ス之^ラ之辞

爰ハソノソレテ其所ヲ得タリトスル意ナリ

山^ノ 海^ノ 豐沮玉門百藥爰在 爰有大物^端字^発ニアリ

時^{コニ} 時者示當其宜然之辞

時ハサフナルベキバレヨニ當リタルヲ云

湯^ノ 誓時日昃^ニ喪 内^ニ 少事長賤事貴共師時^ニ

右蓋ヨリ時マテ十六字ハ語頭ニ用ル字ナリ 彼渠時ナトハ句尾ニ用ルコアリ

中間ニアルトキモ皆下ノ語意ヲ引起ス勢ナリマタ侯曰

聿斂言歆時ノ七字ハ韻文ニテ用ルナリ 散文ニテモ詰命ノ体ニ擬スルカ又

ハ古人ノ成語ヲ切コシ
先処ニハ用ルコアリ

○云噬烝逝 此是斯茲

云 イコフニ カネフニト歎言有所蘊曰云 云ハ往ニ屬ス言ハ見入テニ屬ス

云ハカフ言フコガアルニト云意ナリ

邨風道之云遠曷云能來 速キト云コガアルニヨク
來ルコトハアルマシ

又云字ヲ句尾ニ置久云云意ニテマダ言フコノアル意ナリ

伯夷傳 蓋有許由冢云 大宛臨大澤無崖蓋乃北海云

噬 コニ 噬者有所豫吉以發之辭

噬ハコノ處ハト心ニカシメテ發スル声ナリ アハト訓スルモ義同

唐彼君子兮噬肯適我

烝 コニ 登進而有以結鬱曰烝

烝ハ氣滿テ鬱結シテ出ル声ナリ アハト訓スルモ義同

幽烝在桑野 スニテ桑野ニ在リトヨム時ハ助字ニ
非ス姑ク旧説ニ從ツテ録ス

逝シイ コニ

往而不反曰逝

逝ハユキ去ツテカヘラヌ處ヲ云ナリ

邛乃如之八逝不古處ユキテ古處セズトヨムトキハ助字 非ス姑ク旧説ニ從ツテ録ス

右云嗟ハ韻文ニ用ル字ナリ 悉逝ハ 詩經ニアルノニテ後世ノ文ニハ見ハス

此シ コレ

對彼以舉其敵曰此

此ハ彼之反ナリ体ニ屬シテ其ハニアルヲ存ス辞ナリ

荀有物於此 又爰有大物 爰字ユヘ上ニアルナリ此字ハ上ヲ 承ル字ニ發端ニ用ルノシ

子孟於此有人焉入則孝出則悌 於此ハ上ヲウケテ置キ有人 孟字己ヨリテ云テ見當ナリ

ナルユヘ体ニシテ 又有人於此毀瓦畫墁 コレハ無キ入ヲ假リ毀タス 又有人ヲ用ニシテ上ニナリ

堯非此其身也在其子孫 此人ノ具 此非其身也 此事 身ナリ

是シ コレ 諛同 對非以舉其實曰是

是ハ非之反ニ用ニ屬シテソノウチノ様子ヲイフニ 此ハ往ラ主トス 是ハ來ラ主トス

此是期之別ハ此ハ上ヲ文ヲ主トシテ引括リテ奉ケ持テソノ 事ハト云フ意ナリ 是ハ下ヲ文ヲ主トシテカフ云フモトツ持テ云意持ニ

上ヲ喚起ス此ハ事ノ一ニ彼ニ對シテ云 是ハ吾心ニテ是非ヲ分チテ云 期ハ上下ニ主客タバ上下ハ平ラカニ係ルナリ之ハツ指シモノアリ

偃覆此之謂瓦解是之謂土崩 瓦解ハ体ヲ云土崩ハ用ヲ云 故ニ此ト是ト別チタルナリ

山海潜為之國是此毛氏 是字潜為之國ノ用ヲ指シ此字其 之ハノ文ハ係リテ今見ル外ノ毛氏ノ國ヲ

体ニ云ナリ此是毛氏ハ此字潜為之國一テノ文ヲ引括リ
テ持テ是字ハ毛氏上云モノヲ外ノモノハテナイコノ毛氏チヤト云コニナル

是維 是茲 斯是 維是

コナ 用ス

此人也

上ニ云タ
ル人ガ

是人也

コノカフ云
ノアル人ガ

斯人也

カフ云フスガ
合ヒノ人ガ

之入也

サラ
人ガ

如此

上ニ云タ
ルトアリ

如是

コセチ
トアリ

如斯

コノス
チ合ヒ

亦如之

ソノト
アリ

如茲

コノバ
レヨ
ノトアリ

此日

コノコ
スル日

是日

コ
ノ日

コノ有タソノ日ニ
マカフ云コガアル

爾日

コノコ
クル日

即日

カフアツタ
コノ日ノウチニ

登日

ソノコ
ニソノ日ニ

其日

ソノ同
外アリイフ

由此由是此謂是謂
レド由准知スヘシ

於是

コノ時
コノトニオイト

於是乎

コノコ
ラレテ

於是與

コノコ
レテカ

傳

於是而後授之諸侯也

コレ重語ニ似テ重語ニアス於是ハ
其バレヨナリ而後ハ一段段ヲ越スナリ

斯

ス
マカフ

舉其有條紀者曰斯

斯ハ詩ニ斧以斯之

ハハ割ルニ本ノ理ノ通リ

ニサケテ行コナリコハコレハコナリ其スチ合ヲ持テ云字

意ニテ此是ナドヨリハ甚重ク心ヲ用ニテ言フナリ

襄使臣斯司馬

詠斯猶斯舞

茲

コハ
コト

指之以樹於我地位曰茲

茲ハ蓐席ノ稱ナリ語辭ニ轉用スル時ヒ合テコニカフ

マルト確タビカニツチエヲ立テ、言フナリ

三年于茲ニ三年ノ月日ノタチシ

于茲二年コトハシヨラ歴シ

今茲コレ來茲來年

成人所以立信知勇也信不欺君知不害民勇不作乱

失茲三者其誰與我是字ニレハ三者ノ用ヲニナリ斯字ハ

体用ヲ兼ルナリ茲字ハ九八人所以立ト云外ヘカリテ

コト訓スル類複用 爰在 緊有 於緊 粵者

已上發端ニ中間ニモ 茲者 于寔ヒノ中間アリ

于爰 於焉已上中間ニアリテ句頭ニモ 于斯 於斯

于是 於是 於此 于此 于茲已上中間ニ結

句腰句尾共ニ用煩

○於于乎都 案寔且之

於コトニテ 於者舉之處諸此之辞古文作發ニテ

於ハ体用ヲカ子テ下ト上トハ係ルリ此地位ニテカフアル

ト云フ意ナリ 於ハ上下ノ字 皆我ニ屬ス

于コトニ 于者安其所處之辞

于八体バカリニ付テ下ノ字ハレヨラスヘタルノコナリ彼地位
ニ入テカフアリタルト云意ナリ 于ハ下ノ字 彼ニ属ス

乎 = テハ 乎義見于前

乎句腰ハ用バカリニテ上ノ字ノ様子ヲ語ルニナリ此ノカ

彼方ニテ斯クナルゾヤト云意ナリ 乎ハ上ノ字 彼ニ属ス

志於道 道志ス全体ノ用ラスヘテ云ク 志于道 道カ藝カ何物カトノ辨

別ラスエテ云ク彼道ト云モノニ此志ヲ立ルナリ 志乎道 志サス所ノヤスヲ云クコノ道ニ彼志ヲ立ルナリ

論語 南宮适問於孔子 孟或問乎曾西 論語ハ問於孔子ト云フヲ文ノ正而

立テ主トスル故ニ於字ナリ孟子ハ孟子公孫丑ヘン答ノ
中ニ曾西ノ一ヲ引タルニテカフ云フ或問レトモ有タルゾヤト形容
云タル故ニ乎字ナリ莊子ナド持論中ニハ於字ナルベキ所ヲ多ク
乎字ニシテアルハ皆此例ニテ幽界ノ心思ヲ深クモ多クタルナリ

問 殺之于夷 夷ト云ハレヨ 瑯青出之於藍 藍ト云体ニ出スト云ラ用ヲカケタリ

周執傳 匡國家復之乎正 コレヲカエシタゾ

直茂傳 武王竟至周而卒於周 ヒト通り死シタル外ヲ記スナレハ于字ナリ 秦ニ死スヘキモノガ周マテ來テ

成 穆姜出于房 出タルハレヨヲ記ス意ニテ於字ヲ用タリ

出タル様子ノワサヲカケテ於字ナリ往各キハレヨニ對シテ出タル外ヲ舉ルトキハ自字ナリ

襄三 涉於樂門 于師之梁縣門發獲九人焉 涉于汜而

歸於字ナリ于凡ハ本路ナクハ分ツノミナリ

聖室於怒市於色假設ノ語ニテ上ニ如若ナドノ字アルベキ所

故ニ室市字ヲ活動シテ上ニ置タルナリ實事ヲ

昭不脩政德亡於不暇一聖唯蔡於感此ニタ臆度言カ

必感於蔡ナド、カクキ外ヲ上ノ字ヲ

雅心乎愛矣遐不謂矣字ト同例ナリ浴無於水監當

於入監主トテ法用サセタル故ニカクノ如ク錯綜ヒリ

項紀今盡王故王於醜地而王其群臣諸將善地群臣諸

主ニシテ云タル故當向ニシテ助字ナリ

梁考王茅蘭說王使乘布車從兩騎入匿於長公主園コレハムダク

公孫詭羊勝匿王後宮コレハムダク

助字ナレ扶於越人吳コラ於ハ発声トリ後世人名

焉於語尾ニ用ルナリ語頭美於頭ニモ用ユ

論友于兄弟施於有政コレニテ于於ノ別ヲ見ベシ于ハ

南周之子于歸歸ハハシヨラ上帝既命侯于周服侯服于

周天命靡常于周服ハ周ニオイテスルコト主トシテイヘル

申伯還南謝于誠歸誠歸于謝トアルヘキニ云レドモ

鄘期我乎桑中要我乎上宮明界ノ叙事ナレハ于字元ヘキ

庸莫見乎隱莫顯乎微隱レタレモ

今コニテハ假設ノ形容

如傳司馬相聲稱決乎于茲熱連シタレ

累大雅用天明于周于京孟號泣于旻天于父母

都都者相翕以處之之辭

都ハソレコソ此ハシヨニト云処ニ用ユ例並ニ下卷ニ出

司馬相如大人賦終都攸卒注都於也

向其方、向フテノ意ナリ在詳于後

案通作安案者貼此其所奠地位之辭

案ハ其バシヨニヲナツキテ言フナリ

子苟是案曰是非案曰非全敵國案自屈矣

駢今置質為臣其主安重秦秦禍安移于梁矣

寔所是之迹曰寔

寔ハ是ノ字ヲオモクレテ其跡ヲイフナリ是ノ入声ニ

仲... 之語 簡賢附勢定繁有徒

且上声七夜切

將有所移姑此處之日且

且六チヨツトユトリヲ付テミル意ナリ カツマサニト訓スルモ義同シ例中卷ニ出ス

周頌 匪且有且

之之レ

ソガト訣ス 之者注心於其所識別之辭

之ハユクト訓スル時ハ此ヨリ彼へ移ルスチラ云フ字ニテ明

界ノ文字ナドモ助字ノ時ハ記者ノ心識ヲ其方ヘチ

シテ其理ヲ指レ言フ辭ニテ明幽兩界ニ涉ルク凡テ之

字ハ神用ノ字ニテ其人ノ心ノ其物ニ注クテ想ヒヤリノ云

処ニ置ク富高ノ主タルモラウニオミテ其中ヨリ引リケテ云キ之字ヲ付ル又其トタルモニ對シテ外ノノ客ニシテ云時ニ之字ヲ用ユ

南葛之曹彼葛ト云モソノカ曹ト云ハト云一ノ眼前

子之居楚何官已前楚ニ居タルト既往ノ一ヲ問フニ之字

平畏讒之就固請得宿衛中今讒者アルヲ畏ルニ非ス

應侯之用於秦也孰與文信侯專文信侯ノ方主トルニ

子之所戰處子ト他ノ者ト 子所戰之處

戰フト戰ハハル 子所戰處何心トシニ戰ノ處

戰フト戰ハハル 子所戰處

凡テ讀クセニ之ノ声ヲ用ユル処ニ之字キハ皆明界ク
現前ニ有ルニハイツニテモ之字ヲ除ルニ當然ナリ

之ヲコレト訓スルトキモ同義ニテ之ハ上ノ文段ノ中ノ物カ

事カラ指テソレヲソレニナド云處ニ用ユ

之ト馬ト別ハ之ハ休ニテ其ニ物ニ事ヲ指シ馬ハ用テシ其ハレヲ指スル
焉字ハ上ノ語ノ外ハモトル之字ハ上ノ語ノ物カ事カラ下ノ引來ニ來往別アリ

莫之斯鑿 カニカミルノ此 是之不鑿 カニカミルノ此

此之不鑿 コノノニハカガニ 不此之鑿 コノノヲカガニ

久之 コノノヲ其ナリ 久焉 其サフ有タ

秦師侵芮敗焉 焉字ヒロク秦師侵三字ノ用ヲ 侵芮敗

之 之字内一字ノ体ヲ指スニハ内カ敗ルノナリ

傳 夫史舉下蔡之監門也大不為事君小不為家室以苟

賤不廉聞於世甘改事之順焉 之ハ史舉ノ人ヲ指ス焉

君子非無賄之難立而無令名之患 非難無賄患立而無令名ト云語ナレ

ドモソノヲ彼ニシ言タル
ニハカク 如クカキタリ

論 古者民有三疾今也或是之亡也古之狂也肆今之

狂也蕩古之矜也廉今之矜也忿戾古之愚也直今

之愚也詐而已矣 是字肆廉直ヲ指ス之字在矜愚ヲサス其肆廉直ヲ以疾トスルハ人テハナキト云フナリ

隱愛其母施及莊公詩曰孝子不賈永錫爾類其是之

謂乎 是字詩ノ語ヲサク之字穎考叔ノヲサス此之謂也斯之謂矣ナトモ此ニテ推スヘシ

之謂 ソレカ來ヘユキテ何クト云モノニナルナリ 謂之 シラ名ソダラナラト云フ 中天命之謂性

天ニテ命ト云モノガ人ニウケ持テ性ト云モノニナル 自誠明謂之性 自誠明ナルモノヲ名ケテ性ト云

荀君子之謂吉 君子ニスルノガヤガ 反聽之謂聰 反聽ガコレ

非マ反聽ニハルノガ聰ト云モノニナルク善聽謂之聰ト云トハ善聽ヲ名ケテ聰ト云ト云ク 未之見 之字上ニ

故ニ主ニナリテ見ルコトヲ外ノコトニスレトコトニハセメト云程ノ意ナリ 未見之 見字主ナリテコレヲ見タ

ナリ凡テニ字連續スレバ上ハ用下ハ体ニナリテトニ字ヲ活動セテ見ルニ未之有 未有之莫之知 莫知之トトモ此例ニテ知ヘレ

字人名ノ語助ニ用ルコトアリコレハ声ノツミタル処ニ少シ

心ニ猶豫ヲ持テ之ノ声ヲ挾ミタル コレハ方葉集ニ和歌中ノ文字ヲヤサメ詞トスルト同シ

子孟更公之斯 尹公之他 石之紛如

○厥其戎者 以用式庸

厥者體彼以指斥之之辭

厥ハソノ物ソノ事ヲ体ニシ言フナリ

典厥民折鳥獸擊尾 離 泥又貪夫厥家 厥字詩書ニ多ケレ氏後世ハ

韻文ノ外ハアミリ用ヒズ左傳ニ占筮ノ辭ニテハ厥字アリ

其

其義見于前語尾之其

其ハソノ方ト指テ用ニシ云フナリ

其ト夫トノ別ハ其ハ一物一事ヲ指ス夫ハヒロク彼ヲ包容シテイフナリ

有其德其字德物ヲサス

其有德其字ソノ人ヲサス

以其道其字ソノ道ヲサス

其以道其字ソノ人ヲサス

其非義非其義ナドシナコノ例ナリ

其非有其字物ヲサス

非其有其字人ヲサス

其無人其字ソノ人ヲサス

照其人其字德ヲサス

察其病其字病者ヲサス

其察病其字醫ノリク

自其其有其於其其所其也此例ヲ推シ

秦不其然サテルヲソレハヒスニ窮ツテアル

擅其不然乎ソレハサシアルコトニハセラレマシ

衛其雨其雨二雨ハ用ニシトフナルト呼カリタルナリマタ其字ソレト呼カケテ語勢ヲ反語ニシテモんミ

復唐彼其之子碩大無朋同馬不加喪不因凶所以愛

夫其民也

其諸 其與

戎者斥彼之所内之辞戎乃ハ事ノウヘニテ云フ兩而ハ人ノウヘニテ云フ

戎ハ彼ノ内持名所ヲサレ言フナリ

乃肇敏戎公用錫爾祉戎ハ韻文ニシテ用

乃下スナハキソノ下ニ詳ナリ盤設中于乃心レト訓スルト同意ニ彼今ニシテノ不ソレヲサス

爾義見于前子其至爾力也其中非爾力也彼多クハ其外ヲサス

而ナニ 義見于前

以固而閉

汝ヨリ雨ハカロク

若カク 見干下

汝ハ助字ニ非レモツト録ス

者ハ

者者即物標之之辭

凡事物ヲ指シ言フテ其下ニ者字ヲ置クハ其事バカリヲ主

ニ立テ外ナキモ、一シテ言フナリ

古者今ハツクナシ

今者古ハツク事ナシ

今也古ハカヤル今ハ

今則

古ヨリ主トシテテ

今トハカヤルバ古ノノニ拘

仁者

知者

コノ類者字トシテノ字ハ見ル

記樂者德之華也金石絲

竹樂之器也

樂ヲ主ニシテ金石絲竹ハ其字

樂也者

樂ト云

スガ合ヒラ

乃者

抑者

意者

顧者

何者

不者

然者

其者

或者

或者曰

ニテ其事ヲ主トフル

以モツテ

以是

秉之而揮霍之曰以

以我ガソレヲ自由ニ持アツカフ意ナリ

是以是字上ノ

以是是字上ノ

何以以何ナドモ

運礼以四時為柄以日星為紀月以為景鬼神以為徒星

以上ハ我ヨリ天地ヲ法則トスル用テ言フニ以字上ニ置キ

孟徒法不能以自行以字徒秦以字下以不能保我子孫以字下

雅以莫不增以字上子孟有司莫以告以字上

論羔裘玄冠不以弔羔裘玄冠ハ弔羔裘玄冠以不弔セリカ

不可以已ヤメラレヌ可以ト云フ以不ト云フ

已ナラザルト余以所見ソカ見以余所見ソカ見

以無無以以有有以トモ此ニテ推ベシ以花喻美人此花ヲ以彼ノ美人ニ喻

以美人喻花此美人ヲ以カシラノ花ト云モニ喻スナリ美人ガ主トナル

トキハ較花及美人而品之ノ一、書クヘキナリ

承隔四紂作淫虐文王惠和殷是以隕周是以興是以殷

庸以モツテ用以ミテ復用ス

以ソモヘテ以為トスルナリ謂コトハシ惟イチ途ニ

意ソモフニ想ソモフニ顧カハリミテ思フナリ

用モツテ用八彼ニテソノ用ニナリタル所ヲ云以ハ我カラソク顯然動而為之曰用

之件祈父君子屢盟乱是用長是以ハ八盟カラトカヲリテ乱ガ長シ

茲以モ此ニ准ル敢獻功用字獻功敢用用字上

式 モツテ

ノイテス

由其軌而有以作曰式

式ハ上ノ語ヲ承テ其通りニシテチニ行クニ云処ニ用ユ以ハ用式ハ体

嘉賓 嘉賓式燕以樂

庸 ヒツテ

ニヤルテ

受彼以有所造曰庸

庸容ト通スイレユスノ義ナリ

庸ヲ語頭ニオケハ反語トナリイツモゾト訓ス例下卷ニ出

使其除徒執用以立而無庸毀

將 モツテ 見千後

ソレニモツカフテ行フ意ナリ

○足可宜當 合須應容

足 タス

繼充其量曰足

足ハアノト云字ニテ其物ニシレホドノハ付テタル意ニテソラクニ

ナリテアルトシ 足見 可見 足ハ彼ガソレホドニツテアルナリ可ハ我ヨリ判断シテ云ナリ

可 ベシ

可者許之之辞

可ハサフセラルトヨト我ヨリ判断シテシマフテヤルナリ

不可與 ツクテナイ

不可與 多クハ

深可歎 歎スヘキ

可深歎 歎フ深ク

不可一日無

一日トイヘトモ無クテハカナラヌ

一日不

可無 一日ニナツタ日ヲサスマデナリ

九レ可レ無レ會也
會スルヲナキニ
可レ無レ會矣
會スルヲナキセラ
可レ無レ會也
會スルヲナキニ

焉焉字三反反
語トナルナリ
傳傳可レ不レ察焉
傳トナルナリ
可レ不レ察哉
哉字ヲ加

察ハタルナリ不可レ察哉
ト書ク
可レ無レ可レ不レ助字キ時ハ句頭ニアリテ
ハ反語トナル句ノ中間ニアルハ反語ニ非ス

漆葉青黏散華佗授弟子可服之年百餘歲
ハレバ百

餘歲ニナラレト藥ノ全体ヲ云テ服之可年百餘歲
ドキハコレヲ服セヨ服セバ百餘歲テレト今命スルコトハニナリ

宜宜儀儀同
モトモギト契宜者擇之而判之之辭

宜宜ハ向向フフニツキテ彼ノ中ニテ擇分クテ其判断ヲ言フナリ

宜莫尚焉コレヨリ上ハナイト 可莫尚焉コレヨリ上ハナイト

記記ニテ可レ宜レ別別フ見ル見ベシ宜ハ彼ニ属スルニ莫尚焉ト云モノヲ
宜ニトスルナリ可ハ我ニ属スル故ニ可莫ノ字接續シテ反語トナル

孟子不見諸侯宜若小然シカト云ハスニ辞

用用復復堯舜之隆宜可與比治矣

當當去去聲
ソムツト契當者語其固有必然之辞

當當ハアタリアニニヘカフテツテアルニ云フナリ
今判

断スルニ非ス以前ヨリコノハツシヤト云立立意持持ナリ
當ハコトハ確

主トス宜ハ用ニシイノテ來ヲ主トス

武武安安非非大王大王當當誰誰立立者者

武安傳武安傳非非大王大王當當誰誰立立者者

合

合ハ其恰好カカフチリソフチ処ジヤト云フナリ
當ハ其ノ理ツマラ云
合ハ見分リテ云

合ハ其恰好カカフチリソフチ処ジヤト云フナリ

家

桑穀野木而不合生朝

後漢杜林傳

不合翻移

須

須ハカフスルガヨシト命スルコトハナリ

須者命事之辞

須ハカフスルガヨシト命スルコトハナリ

策

策須以决事

傳

策須以决事

須胥同音テ

應

應ハ外ノヲカクムベシト推量シテ云辞ナリ判断ノ辞ニ非ス

度彼之將爾曰應

當ハ我應ハ彼

應ハ外ノヲカクムベシト推量シテ云辞ナリ判断ノ辞ニ非ス

家語匹夫然悔諸侯者罪應誅

容

容

受彼以聽其所造曰容

容ハ我ヘウケ入レテ一段コレテユレテオク氣味ナリ

不容自己

自字我

自不容已

自字彼ニ自

後漢馬援傳

受誅之家容因事生乱

容字ベシト訓スレドモ當宜ナトトハ大ナル違ヒアリ罪不當誅罪不宜誅

不可誅ナトハ比自誅セラレスト云フナリ罪不容誅ハ

後漢李固傳

况受顧遇而容不盡乎

容庸通シテ庸ライツクソト訓スルト同ジト上テハ反語トナル

ベシト訓スル復用 可應 可宜 可須 應須 應可 當須

宜當 須可 當宜 當應 應合 應當 宜可

○攸所見被 遭遇受逢

攸 イハ トコロ

畫其地位曰攸 スカタ

攸ハ我ヨリ其地位ヲ定メテ云 攸ハ來 所ハ往

小雅 萬福攸同 ハ

攸字後世ハ韻文外ハ用ヒズ

所 シヨ トコロ

ハシト契

奠其地位曰所

所ハ彼ニテ定メリテアル地位ヲ云 ラルト訓スルモ同義ニテ彼ノ サナリタル其物ニテリトイフ

所以 句腰複用ノ例ニ以字ヲ上ノ語

ハカケ所字ヲ下文ハカケテ見ルハシ

信知人所以立 以ハ信 知ヲ以

ナリ所ハ 焉所 ナリ

聖德乎天地歲之所以無水旱也 上文歲ノヲ 說來リテ歲

上文聖德ノヲ 說來テ聖德ヲ主

字主ト ナリ

聖德乎天地所以歲無水旱也

上文聖德ノヲ 說來テ聖德ヲ主

トセル ナリ

其所不知

非其所知

所其不知トカク ハ不成語ナリ

爾所 トコロ

處所 處ハシ

見 ミ

去声

值彼之接我曰見

見ハ向フカラサセニルナリ

億 ニ

隨之見伐不量力也

所見

為見

見被

為所

被 ヒ

去声

受其掩冒處之曰被

被ハサフナリテソノウチニ在ル意ナリ

魯仲連傳以萬乘之國被圍

所見ノ二字ハ体ニ被ナリ被ヨリ以下ハ皆用ニ我ナリ

遭サウラル

行復相値曰遭匝ト同音ナリ

遭ハメダリアクナリ

惠帝紀遭太后虧損至德

遇グラル

湊巧出乎不意曰遇

遇ハ出クハセニナリタルナリ

驪見下節而遇卑賤

受シウラル

從而有以獲曰受

受ハソクヲ我ニケトメタル云

後漢植帝紀李膺等受誣為黨人

逢ホウラル

中路相遇曰逢

逢ハ中途ニテタガヒニ出アフラ云

後漢書和喜皇傳將杜根逢誅

覲コウラル

遇ト義近シ

蒙ホウラル

被ト義近シ

獲クワラル

受ト近シ

得トクラル

同上

取シラル

同上

カス多キニ例ヲ畧ス

為風所吹

為風吹

風所吹

為風之所吹

為風見吹

風見吹

被風吹

遭風吹

遇ヨリ以下取ニ至ルニナ

コレト同例ナリ

イッレニテモ比皆コレニテ所見ニ字ハ其物ノ下ニ置ク其餘ハニナ其物ノ上ニ置ク之彼我ノカヒナリ

○振道緣因 由緣自從

振ヨリ 收整而有以發起レ曰振

振ハ其ウチヲトリオサメテ云意ナリ
振字ヨリト訓スレモ 振古外ハ甲ノナシ

周頌 匪今斯今 振古如兹
古ヲ振テトヨム時ハ助ウ字 非ス姑旧説ニ從テ録ス

道タカ 依此以達其所住曰道
ヨリ 上声

道ハソレフミチニレテタヨリ來ル意ナリ

韓非 有玄鶴二八道南方來 樗里疾已道充聞之矣

緣エン 遵其所限曰緣
ヨリ 轉用ス

緣ハソレニヨリシテ行ク意
蕭傳此災異所緣而起也

因イン 係彼而坐此曰因
ソレ付テト訓ス

因ハ幽界ヨリ出テ明界ヲ言フ之譬ハ化シテ異物トナルルガ如シ

傳 自立為齊假王漢因而立之 卒於陶而因葬焉
傳 卒於陶而因葬焉

由ユ 循此而屆彼曰由
ヨリ 通作猶 コレ付テト訓ス

由ハ明界ヲ言フテ幽界ニ入ルナリ譬ハヤハリ其物ニテ形

色變スルガ如シ
因ハ体ニ属シ來ヲ主トス由ハ用ニテ往 緣ハ因由ヲカ子テ其間ヲ云ク

孟子 由平陸之齊 由是觀之
平陸ニ居タルニヨツテ ソレヨリ主ト云意ニ 由是觀之 カクコヒツキテ

由爾言 介ノ言ニシタカフ
テククトホリニ

因爾言 介ノ言ニ付
テコイニスル

繇 ヨツテ

繇音由 繇ハ由字ヲ重クシテ
体用ヲカ子タル処ニ用ユ

無繇教訓其民 繇モト儒役ノ字ニテ音揺ル
トモヨルト訓スルトキハ音由ナリ

自 ヨリ

カラト訣ス

對他舉其所出曰自

自ハ其中間ヲ除ケテ向クソキハ對シ唯其出ル処ヲ舉ケナリ

東方自出 東方ヲ見テ并レハ
ソレカラ出テタル

出自東方 出ルハ東方カラス
入ニ對シテ云

自東方出 外カラハ出又東
カラ出テタル

來自東 自東來 始自漢
自漢始 大ニ此例ナリ

論 奚自曰自孔氏

定 自南門入出自東門 テ推シ

夏氏之乱成公播蕩又我之自入

周子頽之乱又

鄭之由定

元叔出季處有自來矣

モトカラ叔出季處
ニナリテアルナリ

有由來矣 由字ナレハヨリシテ
彼トニナリ來ルナリ

還自南河濟

晉侯濟自泮

楚師分涉於彭

コトハ本路ニ非ル処ヲ并ニ
通りタルニ於字ヲ用ナリ

從 ヨリ
平声

趁其所路而就之曰從

從ハ其中間ノ付テ行ク路スデ云ナリ

タトハ京カラ江ト向ク對
シテハ自字ナリヨリ行クハ

東海道カラスルカ中山道ヨリ
行カトイフハ從字ナリ

昭 從古以然

自古ハ古ノ始トイフ云從古
ハ古ヨリ今々テノ問ライフ

複ヨリ自從付テカラ從自ツカラソフ自於ヨリテ自于ヨリ

楚ヨリ自從先君以至マテ不殺之身ニ秦法之不行ハ自於ヨリ貴戚ニ

好傳ハ趙飛燕姊弟亦從自ヨリ微賤興ル依ヨル

○故肆為雖 俞爾然而

故カルカニ語舊以待今日故

故ハ其モトヲ實ヲ舉テ言キカスナリ

隱ニ為公故曰君氏為ト故ト重ニ似タレト為ハ彼ニ

昭ト我之不共魯故之以故ト以ト重ニ似タレト故ハ其

非此所以無辨之故也元閔六月葬莊公乱故是以緩

子玉收其卒而止故不敗閔衛侯不去其旗是以甚

敗故ハ上ノ語が主トナルナリ是以ハ是故 以故 故因

為是故 夫然故複用多キニハ例ヲ各ス

太子少法葬故有闕太子少故葬有闕トカクベキニ似タレトモト

故臣故我故ナ故故疊用

肆カルガニ肆者尋往以逮來之辭肆ハ往ヲ事ス

肆ハ故今カクアルト云意ナリ宋景濂ガ文ニ肆字ニ幾端ニ用タル字

義ヲ明カニセザルヨリ誤レリ肆コニ訓

スルトキモ古書ニ皆上ラ
受テ故今ク意ナリ

無肆中宗之享國七十有五年

肆後世ニ韻文
ニ用

為ラダレ
去声

為ハカレニツイテ我サスルナリ

故ハ体我ヲ主トス
為ハ用彼ヲ主トス

就彼而從獎之曰為

論非夫人之為慟而誰為

誰為ハ外ノ者ニハセヌト云
為誰ハソノ人ノ定ラヌト

與タメニ
上声彼下與及ノ下ニ詳ナリ

策或與中期說秦王

雖イハレ
去声

ケレトモト歎

雖者設兩以翻之之辭

雖ハソレハサフナレモ又カフ言フガアルト云立意ナリ

檀雖吾子儼然在憂服之中

コトハ外ニ全文ノ主トス凡ク外アリテ吾
子在憂服之中ト云フヲ引クルナリ

宥宥ニシテ言タル故ニ五
子ノ字雖下ニナリ

吾子雖云云

トアレハ五子ト云モノヲ主ニ立テ云
ナリ凡テ物名ノ字雖ノ上ニナリ

其物主

車徒雖象

車徒上云モノヲ主ニ立テ云ナリ
車徒アリテカモ多クケレトモ

雖車徒象

其人ヲ主ニシ云フ其人
多クノ車徒モアルケレトモ

雖象車徒

車徒カ少ナクテハ
ナイ多クケレトモ

年雖幼

年ノ一ヲオモニ論
ジテ幼ケレトモ云ク

雖年幼

其人ノ一ヲ論ジテツイデニ
年モ幼ナレトモト云タルナリ

其言人人雖殊ハ其人ヲ主トス 其言雖人人殊ハ其言ヲ主
トス 雖其言人人殊ハ上ノ全文ヲ主トスコト類皆コト例ナリ

雖曰云云

トカヤフクニ言
ハルケレトモ

雖云云乎

カフジヤダヤ
ケレトモ

雖云云也

カフ云スダ
ジヤケレトモ

雖云云矣

カフニ定ツテ
ケレトモ

雖云云哉

キツトカフア
アルケレトモ

然ハ即燃字ニテ火ノ物形ヲシタフテモエテアル処ヲ云字ナリ

上ノ文意ヲ承テサフデアルト云意ナリ 下句ノ頭ニアルトキハ上ノ文意ヲ承テサフアルニ

サフアレトナド、款ス凡句頭ニアル然字ハ入テ云タル語ヲ尤ナリト承テ次ニ異見ヲ云出スナリ

爾然ノ別ハ、爾ハカフデアルト其物ノ内ニツキテ云ナリ然ハサフデアルト外ヨリ云ナリ、爾ハ我ナリ然ハ彼ナリ

然而 サフツテアルニラフアトデ 雖然 サフデアルケレドモ 雖爾 カフビヤケレドモ

然則 サフデアルニシテシレバ 若然者 サフデアルヨリナレバ

浩然 サフデアルトソノ物ノ外ノ一ノ字ヲトリテ 鏗爾 ソノ一ノ字ヲテスグ

タトヘテイフ浩ハ水ノ一ノ字ヲカリ來ルニ 鏗 ハヤハリ 洋洋乎 平ハソヤフスラ

而 シカスレテシカク 儼兮 今ハ意ヲ含ミタルニ 斑而 而ハトトバヨ

シカク 而者有越以承之之辞 而ハ即鬻字ニテ獸ノ毛髮ノ掩ヒ懸リタル貌ヲ云字ナリ

上ヲ持シテ段ヲ一段コス所ノ語助ナリ既往ト現今トサカヒ

現今ト將來トノサカヒ皆而字ヲ置ナリ

而後 サフツタ 然後 サフアルウヘカ 爾後 カフツテカラ

子孟權然後知輕重 權ト云モガアルサフ 權而後知輕重 權ト云モノガ

テキテカラ輕重ガシラレ 漢而後 漢ヲヘテチ 漢以後 漢カラフチナリ漢世ヲモイレテ云ナリ

而還ト云フ以還而往以往

可得而聞

求メエタアトテ聞

可得

聞ト云フ

喟然而歎

而字アルハ先喟然ト息ヲツキテ

喟然歎

而字ナキハ當面ノ形

凡ステ假名テト讀ミテ而字ナキハ皆其語トツキ

隱ト云フ王室而既卑矣

コレハ王室二字ノ内ニ王室ハ隆ニ有シモノト云

寬而栗栗而立

コノ類ハ違フ多クモノヲ對ニシイフテ寬ナレ栗栗ナレ氏

隔ト云フ焚書於倉門之外衆而後定

而後衆定ノ意ナレ衆ト云

晉侯聞之而後喜可知也

二掌及楚殺子玉公喜而

後可知也

而後喜可知ハソノ時事ヲ記シタルニテ常法ク喜而後可知ハ後

荀明於持社稷之大義嗚呼而莫之能應

而嗚呼ノ意ナリ

如

見于後

七星隕如雨

親自居坐 尋行追隨

親

ミツカラ

シニテ歎

厚之而不外之曰親

親ハ一サシク我手ニカケテスルヲ云 疏ノ反ナリ

親ハ用

成齊侯親鼓士陵城

躬

ミツカラ

身ニツケテスル

自

ミツカラ

ワカデテ歎

自義見于前

ミツカラト訓ズルトキハ入ノサレツマタスワガテニスルヲナリ

助

助

助

不自忘 自不忘 自不耐 不自耐

自如外ヨリ 自若其人ニテリ 身自 親自 手自

居井ナカラ 置之於茲有定曰居

居ハ其地位ニ在テイマダ動カサル處ヲ云

雅居以凶矜 居頃 居頃之之字上ノ 居有頃

居無幾問モ 居無何ナニト 居無幾何

坐井ナカラ 來之於茲有安曰坐

坐ハツカモナクヤスクトスル意ナリ 後世ノ詩語ニ坐ラソクト訓スルモオルニツカモナクヤスラ云ナリ

蜀諸葛亮傳 使孫策坐大遂并江東

尋ツイテ 追其跡而熟之曰尋

尋ハモトアリシ事ノ跡ヲツギテスルナリ

宋書五 尋王恭起兵誅王國寶旋為劉牢之所敗

尋即 尋復

行ツクニ 行ハ止之反ニテヤガラ其処ニ至ル意味ナリ

紀后 太尉行至 病亦行差

勅語 宋書 紀后 太尉行至 病亦行差

追ツイテ

ホド多ヲ誤ス

認踪期其及之曰追

追ハ其アトノ間ヲスカサズ來ル意ナリ

周書宣ツイテ 追尉遲氏入宮

隨ツイテ

ツヒクト誤ス

委彼之所恣曰隨

隨ハ向フノミ、ニツキ行ク意ナリ

列ツイテ 隨生隨死

從ツイテ 見于前

旋ツイテ 見于後

○敢肯猥濫 聊頗向垂

敢カシ

スカト、誤ス

敢者冒突不憚之辭

敢ハ遠慮ナクストサシ出ル意ナリ

不敢自量自量ルヲ

敢不自量自ラ量ルヲ

必自量ラ、云フニ返ルナリ

不敢不勉不勉ト云モノヲ

テ持ル故ニ敢ノ例ナリ

風蝮蝮在東莫之敢指

指指ス

莫敢之指指ス

莫敢指之指ス

指ス

敢莫指之反語

敢不敢弗敢莫ノ類此ニ在レ皆反語ナリ其上ニ

列ツイテ 側亡君師敢忘其死

亡君師ト云カケタル語

氣ニテ反語トナルナリ

列ツイテ 弟子敢有所謁謁ス

有所敢謁謁ス

有所敢謁謁ス

有敢所謁トカクハナリ

肯アエテ

又作肯肯肯

肯者領而諾之之辭

め吾答泉

...

...

肯ハトクシニシテウケガフナリ

不肯イヤ 肯不見シト 不肯見イヤトイフ

一成 秦伯不肯涉河ラ 邠惠然肯來

猥ミタリ 狎褻不顧ヲ 冒瀆曰猥

猥ハアメリナレクシクヨリツク意ナリ 猫猥トアルハ

律猥云德化不當用兵ヲ

濫ミタリ 浪孟及過濫曰濫

濫ハメツタニワケモナキヲレカケルヲ云

汎ミタリ 汎同 汎ミタリ 妄ミタリ

聊イソカ 得姑息以自淑曰聊

聊ハヤスルト訓スル字ニテアクヨレトスル意ナリ

一 亦聊以固吾圉也 薄イソカ 詳于 後

頗スコラ 敬偏有立曰頗

頗ハ陂ノ形ノ如クカタヒクニ成ルニテ六七分其方ニ成ルニ 殆ハ八九分

六國 表 戰國之權變亦有可頗采者

向キハツ 嚮同 稍已處此日向

め 吾 家 良 六十一

向ハ大カタ其バレヨニナリタルヲ云 魏村天下向乎中興

垂 スイ

行將處此目垂

垂ハホトリト云字ニテ其バレヨニ近ツキタルヲ云

後漢劉為傳自在漢川垂三十年

且 ナシクユ見干後

○彌愈益増 加倍况滋

彌 イヨク

且於彼盈之曰彌 弥ハ勝ト同音ニテ義通ス

彌ハワタルト云字ニテ段クニ満チテハイニ成ル意ナリ

韓曠日彌久而周澤既渥

愈 イヨク

イヤミト訣 超邁以有尚曰愈

愈ハ今テトハ段ヲユヒタルトニ成リタルヲ言フナリ

愈ハ体ニテムテ其バレヨニ段ヲユヒタルトニナリタルナリ一照ノ処ニテニロフ彌ハ用ニテ長クノ間ニ段クニユヒタルキニ一朝ノニ非ス是其別ナリ

七昭 及壬子駟帶卒國人益懼齊燕平之月壬寅公孫段

卒國人愈懼 コレニテ益ト愈ノ差別ヲ見ベシ

益 エキ

北往有贏曰益

益ハ八テマデニ比スレハ多クナリ、レツケル意ナリ

イヨクト云コレバ、イヨヤカノ、各ニテ物ノ立スル様子ヲ云詞ニテマスト、サ、ルト、拘ハス言フナリノ、ス、ハ多クナリタルヲ云相似テ同ジカラス

用傳用君孝公益益愈然而未中旨淮南王傳愈益治器械攻戰具

楚世家王稍益疏外建也項羽本紀諸侯並起滋益多

增マヌク増ハ二階カサ子タルキニナリ上ニカサ子加フルハ増ナリ累而重之曰増旁邊ニヒロカルハ滋ナリ

傳大宛穀抵奇戲歲増變甚盛益興

加カ加ハ今マデノヲアルナリニシテ其上ヘ添タルヲ云

卒六卒在陳而囂合而加囂

加之カヒ加旃カヒ加以カヒ至若カヒ至如カヒ若為カヒ

倍バ倍ハ一倍マシナリ一倍ノモニ一倍ノモニ加フルハ倍ニ併其二曰倍

況キヤク況マヌク又作况擬其所有尚者而掩之曰況

大亂大況大斯削大

滋シ滋ハ段クニ至テレケリハビヨルヲ云

衍而旁覃曰滋イハヤト訓ス

助語釋義 卷之十一

例後ニ出

例後ニ出

例後ニ出

例後ニ出

例後ニ出

例後ニ出

例後ニ出

例後ニ出

益ハ体ニテ其マシタル迹ヲ外ヨリ見テ云ナリ 滋ハ用ニテ其モノ
ニツキテマシユク处ノ神用ヲ云ナリ 増加ハ体用ヲカ子タリ

傳酷吏 法令滋章盜賊多有リ

添ラスク 上ニソエル意ナリ

助語審象卷之上

